

「人権週間」

みなさん、おはようございます。12月は、1年の中でも特に忙しくなる時期です。町の様子もあわただしくなり、車を運転する人たちの気持ちにも余裕がなくなりがちです。どうか、交通事故には十分気をつけて生活してください。

さて、12/4から12/10まで「人権週間」です。

はじめに、詩人金子みすゞさんの詩「こだまでしょうか」を読みます。

「こだまでしょうか」                      金子みすゞ

「遊ぼう」というと    「遊ぼう」という。

「馬鹿」というと      「馬鹿」という。

「もう遊ばない」というと    「遊ばない」という。

そうして、あとで    さみしくなって、

「ごめんね」というと    「ごめんね」という。

こだまでしょうか、いいえ、誰でも。

この詩は、東日本大震災の後、ACジャパンのCMで使われた詩です。最後にテロップでこう締めくくります。

「やさしく話しかければ、やさしく相手も答えてくれる。」

言葉はこだま。言葉は言霊。

言葉は、もう一人の自分です。

「人権」というたった二文字の意味を正しく理解し、それを日々の行動で示すためには、まず自分の使う「言葉」について考えることが大切です。どんな言葉を知り、どんな言葉を選ぶかによって、私たちの「考え方」も「人とのかかわり方」も変わっていきます。

最後に東京都民の人権川柳を紹介します。

「その言葉 手で殴るより 痛いかも」

「気づいてる？その笑いにも 痛みあり」

「冗談で 言った言葉が 深い傷」

言葉に関する感性を磨き、すてきな言葉があふれる学校にしていきたいと思います。